

モデル事業名	滋賀県湖北地域移住・交流サポートシステム構築事業
活動団体名	湖北移住交流支援研究会 (こほく いじゅう こうりゅう しえん けんきゅうかい)
ホームページ	<a href="http://www.cohok-style.jp/">http://www.cohok-style.jp/</a> 滋賀県湖北地域への交流居住・移住に関する情報サイト ※研究会オリジナルのHPはありません。滋賀県の関連事業のHPに情報を掲載しています。
所属/ 担当者名	代表：杉野 吉成 事務担当：豊田 綾
連絡先	電話：0749-50-1019 E-Mail：cohok-style@leto.eonet.ne.jp
活動地域	滋賀県湖北地域（長浜市、米原市） ※平成22年1月1日に、長浜市、虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町の1市6町が合併し、長浜市となった。

● 活動地域の概要

- ・滋賀県湖北地域では、地域の中核である旧長浜市を除き人口は減少している。とくに旧余呉町、旧西浅井町、旧木之本町では10%超の減少率である。（※旧長浜市も市街地周辺部の一部を除けば人口減は同様である。）
- ・高齢化率はいずれも20%を超えている。なかでも旧余呉町は30%を超え、旧木之本町、旧西浅井町もまもなく30%を超えるのは必至の状況にある。
- ・高齢化率が50%を超える集落が8集落を数え、その予備軍とも言える55歳以上人口比率50%超の集落が19集落存在している。今後、高齢化率50%超過集落は加速的に増加することが予想される。



高齢化率50%を超える集落  
では空き家が急増（米原市）



琵琶湖畔に建つ古民家、都市からの  
移住者が再生（旧西浅井町）

周辺図



表 人口・高齢化の現状

市町	平8人口	平20人口	増減率	高齢化率	50%超集落
米原市	40,637	40,609	▲0.1%	24.7%	2 (6)
旧長浜市	78,051	83,785	7.3%	21.0%	0 (5)
旧虎姫町	5,996	5,541	▲7.6%	24.9%	—
旧湖北町	9,001	8,922	▲0.9%	23.6%	—
旧高月町	10,993	10,101	▲8.1%	22.5%	—
旧木之本町	9,505	8,194	▲13.8%	29.8%	2 (4)
旧余呉町	4,380	3,702	▲15.5%	33.8%	4 (4)
旧西浅井町	4,983	4,468	▲10.3%	29.6%	—
計	163,546	165,322	1.0%	23.2%	8 (19)

※ 人口は住民基本台帳 平8.11.1および平20.7.1時点

※ 「50%超集落」欄の数値は、高齢化率50%を超える集落数。

○ 内は55歳以上人口が50%超の集落数。「—」はデータなし。

「滋賀県中山間地域過疎高齢化集落問題研究会」資料による。

● 活動地域の課題

- ・滋賀県は、全国的にみても人口の増加率が高く、高齢化率は低い県であるが、県内における南北格差は大きく、北部の山間地域では、全国的な状況と同じように、人口減少が進み、高齢化率が高い状況を迎えている。
- ・湖北地域においても、中山間地域を中心に基礎的条件が厳しいところでは、過疎化や高齢化が進行し、高齢化率が50%を上回る集落が生じる状況となっている（上述の通り）。その予備軍とも言える集落も数多く存在しており、地域力の低下により集落の基本的な機能維持さえ困難な状況を迎えるところが今後生じてくることが懸念され、これら地域の活性化対策が急務となっている。
- ・それぞれの地域での自立的な取り組みを促していくことはもちろんのこと、これらの活動を支援していくための仕組みづくりが課題である。

## ● 活動の内容

### ・平成20年度

- ①移住交流サポート組織の立ち上げに向けた実践活動（田舎暮らし体験プログラムの企画・運営の実施）
  - ・伊吹山麓のんびり田舎暮らし体験（10月）、湖北の古民家空き家見学ツアー（12月）、炭焼き体験イベント in 上板並（11月～12月）
- ②移住交流サポート組織の立ち上げ準備
  - ・定例会議の開催（10回）、先進地事例の視察・研修（5ヶ所）、関係者ヒアリング（2ヶ所）
- ③湖北地域移住・交流促進交流会議の開催
  - ・本事業の成果報告を兼ねて、地域住民や関係者・関係機関に活動を周知。組織化に向けた協力をPR.

### ・平成21年度

- ①『田舎暮らしフェスタ』の開催（11月1日）
  - 移住交流サポート組織の立ち上げ準備
  - ・定例会議の開催（9回）、フェスタ出展者との意見交換（2回）ほか
- ③湖北地域移住・交流促進交流会議の開催（※2月下旬開催予定）

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

- 「田舎暮らし体験プログラム」の実践を通じて、事業企画・運営力、空き家情報の収集力、小地域における地域づくり活動支援方法など、多様な能力を持つ人材を発掘・養成し、相互をネットワークする場となった。
- マスコミ報道の機会が増え、湖北地域における移住交流促進に向けた関心が高まった。地元行政が過疎高齢化で悩む農山村や中心市街地の重要な活性化方策の一つとして、空き家対策に着目することになった点は大きい。田舎暮らしを求める都市住民のニーズを、地元住民が肌で感じとったことは大きな成果であった。



伊吹山麓のんびり田舎暮らし体験（2008/10）地元のまちづくり懇話会メンバーと意見交換するツアー参加者

### ● 平成21年度

- 10月31日（土）～11月1日（日）の2日間、余呉町（当時）を主会場として、『移り住むなら滋賀県湖北 田舎暮らしフェスタ』を開催した。目標とした入場者200人を大きく上回る参加が得られた。
- フェスタ開催のねらいは、湖北地域への移住交流促進の活動をより幅広い活動とするために、民間事業者（住宅・建築関係者など）や地域づくり団体（地元団体）も参画できるイベントとして企画したものである。
- 現在、フェスタに出展いただいた民間事業者や地域づくり団体等とともに意見交換を重ねているところである。一同に「あんなにお客さんが来るとは思わなかった」との感想・意見であり、次年度以降のフェスタ開催を目標に、協議を重ねているところである。



移り住むなら滋賀県湖北 田舎暮らしフェスタ（2009/11）トークショーは立ち見席が出るほどの大入りに（左）。民間事業者の展示ブース 多くの参加者に驚く（右）。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

- 本モデル事業は、湖北地域への移住交流促進に有効に機能する地元サポート組織のあり方を研究することにある。当初は、民間を主体とした自立的な組織づくりを目標としてきたが、地域づくり支援を中心に地元行政の関与も必要であり、その上での民間との棲み分けを組み立てていく必要があるとの結論に至った（平成20年度）。
- また、研究会は中心メンバー10名程度が活動に関わってきたが、湖北一円に、しかも行政からの認知も得ながら活動していくためには、人的ネットワークの広がりを獲得していくこと、そして多様な人材を事業でつないでいくことが必要である。その意味で昨年11月に開催した「フェスタ」は、次年度以降に大きな可能性を残したと言える。
- 「フェスタ」の開催を湖北での多様な人材を束ねる力としつつ、研究会はあくまで研究組織であるので、これを発展的に解消し、半官半民の特性を生かせる人格をもった移住交流サポート組織を組織化していくことが必要である。

### ・展望

- 上述したとおり、昨年11月に開催した「フェスタ」に出展者として参加いただいた民間事業者ならびに地域づくり団体等と今後の可能性について意見交換を始めたばかりである。この集まりにおいて、次年度以降の活動について方向性を確認（＝第2回フェスタ開催）した上で、推進主体としての組織化を図りたい（実行委員会など）。
- 2月下旬に開催を予定している「湖北地域移住・交流促進交流会」において、次年度以降の方向性を対外的に報告できるように対応していきたい。
- また、推進主体の構築にかかる取り組みと並行して、空き家情報の収集から情報発信・有効活用に至る、空き家活用の仕組みをシステム化していくことについて、研究会を中心に調査・研究を重ねていく。